

# APP 環境新聞

発行日 2024年6月30日

発行者 エイビーピー・ジャパン株式会社 (APP ジャパン)  
ユニバーサル・ペーパー株式会社 (UP)



APPは持続可能な開発目標 (SDGs)を支援しています。

Forward Faster  
with Actions



SAVE THE DATE

13<sup>th</sup>  
Stakeholder  
Advisory  
Forum  
Thursday, July 25<sup>th</sup> 2024

## 森の再生プロジェクト ~いっしょにSDGsに取り組もう!~ 活動報告<9>

エイビーピー・ジャパン株式会社(以下、APPジャパン)とユニバーサル・ペーパー株式会社(以下、UP)は、売上の一部をベランタラ環境保護基金(以下、ベランタラ)に寄付してインドネシアの荒廃した自然林を再生する『森の再生プロジェクト~いっしょにSDGsに取り組もう!~』(以下、森P)を行っています。

昨年度の活動を振り返ると、10月~12月にかけて集中して行った第5期の植樹活動が無事に完了し、結果として25ヘクタールの植樹を実施することができました。その後、今年1月1週目と3週目には森林パトロールが行われました。第5期エリアは違法なパーム植林地に隣接しているため、このパトロールは植えた苗の状況確認だけでなく活動するスタッフの安全確保も目的とし、ミナス・タフラ森林管理ユニットから8名が参加しました。

また3月には、森林管理ユニット、ベランタラ、そして農民グループからの代表者が集まり、これまでの活動に対する評価を行いました。その中で、果物やバラングランなどその土地条件に適した樹種について話し合い、植樹から6ヶ月以内に必ずメンテナンスを実施すること、活動エリアは侵入などの違法行為が多く発生するために定期的なパトロー

<第5期の樹種別植樹本数>

番号	樹種	本数
1	バラングラン	3,324
2	ユーカリ	2,651
3	カユプテ	1,000
4	マトア(食用)	2,908
5	ジェンコル(食用)	250
6	プタイ(食用)	2,397
	合計	12,510

ルを徹底すること、地域コミュニティの参画規模拡大について議論されました。これらの評価は、本年度の活動に反映されることとなります。<次号に続く>



## 第13回 SAF を開催

APPは、来る7月25日(木)に第13回ステークホルダー・アドバイザリー・フォーラム(SAF)を開催します。メディア、環境NGO、専門家、政府関係者、取引先、地域住民などを招いてサステナビリティにおける取り組みの進捗報告と意見交換を行います。参加をご希望の方は以下のリンクより登録ください。

- 2024年7月25日(木)  
11:00-14:00(日本時間)
- リアルとオンラインのハイブリッド開催
- 参加費無料
- 英語開催(通訳なし)
- 事前登録リンク

<https://link.app.co.id/saf>

## APP WBCSDに加盟



APPは、2024年4月にWBCSD (World Business Council for Sustainable Development / 持続可能な開発のための世界経済人会議)の新しいメンバーになりました。これにより、200社以上のグローバル企業と協力しながらSDGs達成に向けて気候変動の影響を減らし、自然を守り、社会の不平等に対処することを目指します。

また、持続可能性に関する顕著な活動により、APP持続可能性担当役員のエリム・スリタバがWBCSDの選出する“Leading Women Award 2024”を受賞しました。この受賞を、APPの持続可能な経営への取り組みをさらに前進させるステップにしたいと思います。

## ここにも「森P」ロゴ

森Pにご賛同いただいたお客様の製品パッケージにはプロジェクトのロゴが付いています。ここにその一部をご紹介します!

株式会社坂本製菓様 ▶  
「2色さくら抹茶きんつば」

天河製菓株式会社様 ▶  
「檸檬まんじゅう」



## A2コート紙がグリーン購入法適合製品に

2023年12月にグリーン購入法の基本方針改定が閣議決定され、印刷用紙の適合条件において認証材パルプが古紙パルプと同様に扱われることになりました。その結果、APPジャパンのシナールDGグロスコート・マットコート(PEFC認証パルプ100%)が総合評価値100点となり政府や地方自治体などが調達する際の条件適合品になりました。詳細は環境省のホームページをご覧ください。 <https://www.env.go.jp/policy/hozen/green/g-law/net/paper.html>

## 筑波大学附属坂戸高等学校 2024年度『グローバル・ライフ』コラボレーション授業を実施!



熱心に講義を聞く筑坂高校生



授業の様子

2024年6月24日、筑波大学附属坂戸高等学校(以下、筑坂高校)より依頼を受けて、『グローバル・ライフ』科目の授業においてAPPジャパンは取引先様とのコラボレーションによる講義を行いました。当社では、国内外においてESD (Education for Sustainable Development / 持続可能な開発のための教育) を推進する筑坂高校の生徒の皆様と交流を重ねており、昨

年度より筑坂高校と筑波大学による初めての高大連携インドネシア・フィールドワーク研修プログラムも実施しています。

本年度入学の1年生160名に向けた本授業は、一般社団法人日本エシカル推進協議会(JEI) 薄羽理事のSDGs意識・行動調査に関わる講義と共に3年目を迎え、当社サステナビリティ担当の山崎は『SDGs達成に向けてAPPが取り組んでいること』と題し、インドネシアの植林から紙の生産について、また深刻な森林火災発生を防ぐ地域活性化「DMPAプログラム」や森Pについて講義を行いました。

さらに、今年はアスクル株式会社コーポレート本部の小和田統括部長による講義のコラボレーションが実現し、サステナブルな資源循環の取り組みについては、聴講する生徒の皆様から次々と関心が寄せられました。特に、流通返品や箱潰れ返品といった高品質在庫の廃棄をなくす「Go エシカル」や、使用済クリアフォルダの回収・再資源化によってリサイクルを実現する資源循環プラットフォームについて具体的な質問が続き、「鋭い質問ですね」というコメントが弾みました。一社単独ではできないことも、ステークホルダーが共感しあう中でムーブメントがうまれていく可能性について小和田統括部長より示唆があり、「海外の生産現場から国内の流通改革まで一貫通貫した講義内容は初めてのことであり、生徒たちにとっても大変貴重です。」と筑坂高校の建元教諭からコメントをいただきました。

まさに企業と教育現場の共創が実現する新たな機会となりました。今年夏には、日本ESD学会において報告も予定されています。

### 中学生向け企業訪問プログラムを実施

昨年より始めた中高生の企業訪問プログラムですが、今年6月には愛知県、三重県、大阪府の5校の生徒さん達をオフィスにお迎えしました。事前に質問を寄せていただいたり、後日お礼の手紙をいただくなど、当社にとってもやり甲斐のあるプログラムとなっています。



大東市立南郷中学校



豊田市立藤岡南中学校  
桑名市立隆成中学校



名古屋市立上社中学校  
名古屋市立沢上中学校

### NEW EDUCATION EXPO ミニセミナー開催

2024年6月8日、株式会社内田洋行様が主催する教育関係者向けの講演および商品展示会「NEW EDUCATION EXPO 2024」が東京ファッションタウンビルで開催され、APPジャパンは文具カタログ『UCHIDAS』に掲載されているコピー用紙に関連したミニセミナー「森にやさしいコピー用紙にまつわるお話」を開催しました。

ミニセミナーでは、SDGs時代における当社の紙づくりや、中高生による企業訪問プログラムの様子を紹介しました。立ち見も出るなど学校の先生の間での関心の高さが伺えました。



ミニセミナーの様子

### 「APPはこう考える」～再生紙とバージンパルプ紙④～

紙はバージンパルプと古紙パルプの循環により成り立っています。二つのパルプは環境面や品質面で優劣をつけるのではなく、長所を活かして紙の種類により棲み分けることが良いと考えます。

2023年12月の閣議決定によるグリーン購入法のガイドライン一部改訂は、そうした私たちの考えを裏付ける出来事でした。原料の一部に古紙パルプを使用した再生紙である必要があった印刷用紙が、森林認証材を使用したバージンパルプ紙も再生紙と同じ評価点を得られることになったのです。

紙市場の縮小により古紙の回収量が減少しつつあることが改訂の背景としてありますが、印刷用紙はダンボール原紙などと比べて白さが求められ、少ない原料で品質を保つ必要があることから、生産面から見れば再生紙である必然性は薄かったと言えます。

印刷用紙と似たような特性を持つ紙として、衛生用紙や情報用紙もガイドラインの見直しながされることを期待します。

### 経団連自然保護基金 支援プロジェクトに再選出

公益信託経団連自然保護基金は、自然環境保護に繋がる国内外のプロジェクトを毎年選出し、支援しています。2024年度に選出された45プロジェクトの1つに、ベランターラの活動が選ばれました。2022年の初選出から、今回で2回目となります。

この活動は南スマトラ州のパダン・スギハン野生生物保護区において、スマトラゾウの保護と地域コミュニティとの共生を図る取り組みです。森林が減少し、餌を求めてスマトラゾウが畑を荒らしたり村を襲ったりという衝突事故が起きている為、コミュニティへの教育などに焦点を当てたプログラムを実施します。

今回の選出を通じて、日本の皆様にもインドネシアやベランターラについて理解を深めていただければ幸いです。



プロジェクト地域のスマトラゾウ



### 森の再生プロジェクト 参加方法

1. 「森の再生プロジェクト」の対象製品を購入する
2. 個人・法人等で寄付をお考えの方  
→ APPジャパンにご連絡ください (sustainability@appj.co.jp)

### APP 環境新聞バックナンバー

こちらよりご覧いただけます

<http://www.app-j.com/topics/1673.html>